

青年期用価値とコミットメント尺度の作成 (1) — 尺度の信頼性と妥当性の検討 —

○石津憲一郎 (富山大学)
下田芳幸 (佐賀大学)

大月 友 # (早稲田大学)
永田雅樹 # (関西学院大学)

キーワード：価値とコミットメント、青年期、ACT

目 的

本研究の目的は、Acceptance and Commitment Therapy の文脈における「価値」の明確さの程度を測定する尺度を作成することである。すでに、PVQ II (土井ら, 2014) や VCS (斎藤ら, 2014) といった価値を選択した上でその機能面について測定する尺度がある。本研究で作成する尺度は、中学生から用いることを想定し、価値の明確さの程度を測定できる尺度の開発を試みる。

方 法

調査対象者 中学生559名, 高校生176名, 大学生159名, 成人就業者72名。

調査内容 1) 価値とコミットメント尺度 (Value of Young Age scale (VOYAGE)): アクセプタンス&コミットメント・セラピーに関する書籍や先行研究 (Blackledge et al., 2010) を参考に、筆者らが、価値の明確さと価値に向けたコミットメント行為への従事を測定するための15項目を作成した。更に、中学生, 高校生, 大学および社会人において妥当性検証のために以下の尺度を実施した。中学生: ①過剰適応尺度 (石津, 2006) ②EROS (国里ら, 2011) ③充実感 (大野, 1984) ④AFQ (Ishizu et al., 2014)

高校生: ①EROS (国里ら, 2011)

大学生: ①主観的幸福感尺度 (伊藤ら, 2003) ②日本語版 SWLS (角野, 1994)

成人: ①AAQ-II (嶋ら, 2013) ②BADS (高垣ら, 2010) の行動活性化因子

手続き 中・高・大学生は協力の得られた学校にて授業終了後等に, 成人は web を通じて質問紙への回答を任意で求めた。また, 中学生は再検査信頼性を検討するため, 調査は2回に分けて行われた。また成人は39歳以下を分析の対象とした。

結果と考察

調査で得られた項目の中で天井効果が認められた1項目を除外し, HAD (清水, 2016) を用いて MAP 分析と並行分析を行ったところ, どちらも2因子解が適当であった。最尤法, プロマックス回転による因子分析を行った結果, 第1因子には「どんな生き方になりたいのか分かっていて, 」「こんな自分でいたい」という思いをもって, 努力する」といった項目から構成され, 「価値の明確化とコミットメント (Clarification of Value and Commitment: CVC)」因子と命名した。第2因は「どうせダメとやる前からあきらめる」や「いやな気分になると大事なことが手につかない」等の項目から構成され,

「回避の持続 (Continuation of Avoidance: CA)」因子と命名した。回転前の寄与率は2因子で51.06%, CVC と CA との因子間相関は-.26で, α 係数は, それぞれ.87と.78だった。尺度の妥当性を検討するために, CVC, CA と妥当性検証のための尺度との相関係数を算出した。まず中学生において CVC は充実感, Eros と正の相関が (それぞれ $r=.51, r=.55$), CA は負の相関 (それぞれ $r=-.40, r=-.41$) が示された。過剰適応と, CVC, CA それぞれの相関は $r=-.13$ と $r=.30$ であった。高校生では Eros と CVC, CA それぞれに $r=.42, r=-.41$ の相関がみられた。大学生で幸福度の「前向きな気持ち」「達成」「失望感」「自信」との間に CVC は $r=.40 \sim .56$ の正の相関が, CA との間に $r=-.21 \sim -.41$ の負の相関が確認された。また, SWLS と CVC, CA の間にはそれぞれ $r=.52, r=-.29$ の相関があった。社会人においても Eros と CVC, CA でそれぞれ $r=.42$ と $r=-.41$ となった。尺度の再検査信頼性は中学生サンプルのみで検討され, 3週間の期間を空けての再検査信頼性は CVC と CA で $r=.75$ と $.64$ であった。VOYAGE には以上の結果からある程度の信頼性と妥当性が確認された。

Table 尺度項目と因子分析結果

	因子負荷量	
自分がどんな生き方をしたいのか、わかっている	.73	-.02
「こんな人になりたい」という自分なりの目標がある	.71	-.05
「こんな自分でいたい」という思いをもって、努力する	.70	-.18
心から喜びや満足を感じるために、 自分が何をすればいいか知っている	.69	.01
「こんな人生を送りたい」という自分なりの目的が見えている	.68	-.01
何をしたら、心から充実感や達成感をえられるのか、 わかっている	.63	-.05
すぐに思うような結果がでない事も、 自分のためになると思う事は、少しずつでも続ける	.56	-.21
自分の目標のためには、たいへんな事にも取り組んでいる	.55	-.19
自分がうちこみたいと思えるものに、取り組んでいる	.52	-.07
ちょっとでもうまくいかなければと、 自分の目標がどうでもよくなる	-.08	.73
自分にとって大切な事でも「どうせうまくいかなければ」、 「べつにできなくてもいい」と思う	-.16	.71
「どうせダメ」と、やる前からあきらめる	-.18	.70
自分で決めた目標や夢に対して、なぜやりになっている	-.02	.56
いやな気分になると、大切な事が手につかない	.00	.52

引用文献

清水裕士 (2016). フリーの統計分析ソフト HAD
メディア・情報・コミュニケーション研究, 1,
59-73.